

長期間使用した大型油圧クレーンのエンジン周り自主点検強化のお勧め

所有されている機械について日頃から定期点検に励んでいらっしゃる事と存じます。しかしながら、長期間使用した機械に関してホース類、配線、エンジン周り排気関係の経年劣化などについては、つい見逃しがちになってしまいます。

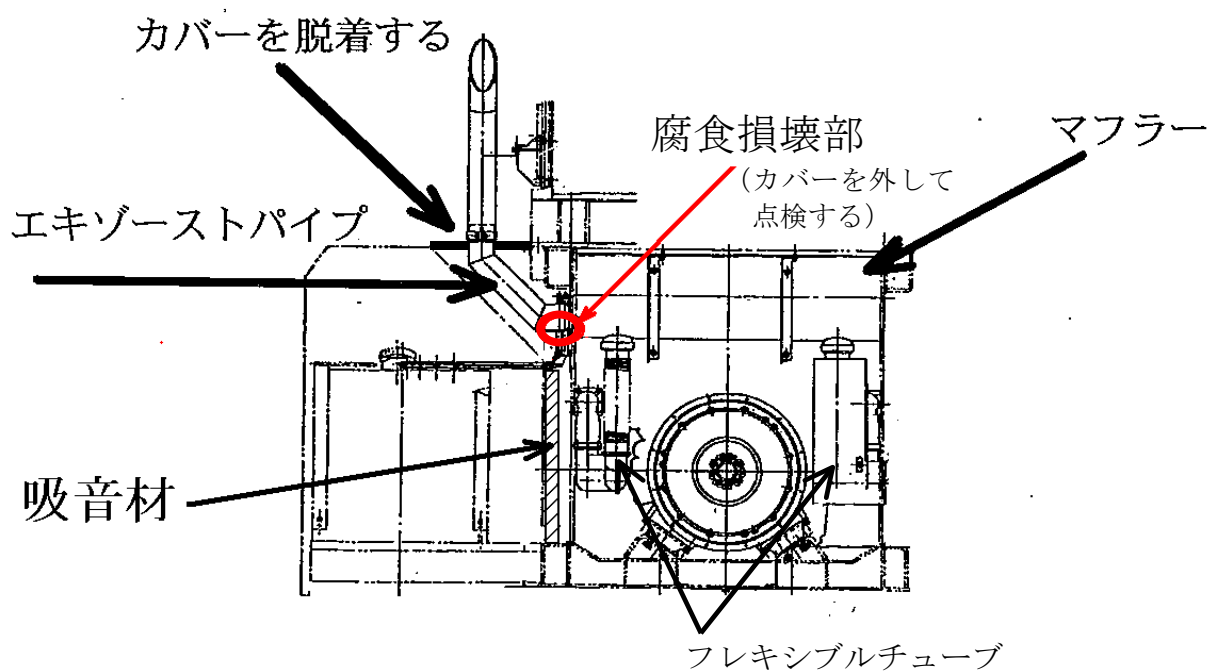
そこで末永くご愛用頂くために、特に7～8年以上経過した機械に関しては、これら部品について目視にて点検し劣化の度合いの激しい部品については早めの交換を推奨致します。

激しい劣化を放置して継続使用した場合、思わぬ故障（油漏れ、燃料漏れ、短絡、火災等）を引き起こす可能性もあります。古い車輛については点検用扉をあけることに加え、カバーなども取り外して普段目に触れない部位にも気を配り点検される事をお勧めします。

また、車検、クレーン検査などの際に併せて点検整備するよう、弊社サービス工場にお申し付け頂く事もお勧めします。

下記の図は NK-1600V,KA-2000 の上物エンジン参考用配置図ですが、エキゾーストパイプの下図位置において経年劣化による腐食損壊により排気ガスが流出し作動油等の染み込んだ吸音材に引火した例があります。

排気系のマフラー、エキゾーストパイプ、フレキシブルチューブなどの定期的な点検の励行をお願い致します。



「労働安全衛生法」第45条に定められた自主検査に関し、吊り上げ荷重が0.5t以上の移動式クレーンを対象として「クレーン等安全規則」においては、第76条（1年以内毎に1回）と第77条（1月以内毎に1回）に事業者の義務として自主検査を実施する事が定められていますが、エンジン周りについても自主検査項目に含まれております。